

新潟県立巻総合高等学校 学校管理業務仕様書

学校管理業務の実施に当たっては、委託契約書に定めるほか、この仕様書の定めるところに従い、誠実に行うものとする。

1 学校管理従事者の待機場所

業務のために席を離れる時以外は事務室に待機すること。

2 開扉・閉扉及び開口部の解錠・施錠

(1) 鍵の管理について

ア 校舎等の開扉・閉扉を行うため、学校管理従事者に次の鍵・カードを預けるものとする。

(ア) 鍵 職員玄関、事務室、生徒玄関

(イ) カード 磁気カード（電気を使用する鍵システム（以下「電気鍵システム」という。）に使用する。）

イ 従事者は、預かった鍵・カードを常に厳重に管理すること。

ウ 万一鍵を紛失した場合は、直ちに事務長（もしくは事務長が指定した職員）に連絡をすること。

(2) 電気鍵システムのセット及び解除について

ア 事務室内に電気鍵システムが設けられている。学校管理従事者は、登庁時はセットされている電気鍵システムを解除する。また、退庁時にはセットして退出する。

イ セットの方法及び解除の方法

(ア) セットする場合 操作盤の脇にある「ご利用操作ガイド」の手順で行う。

(イ) 解除する場合 操作盤の脇にある「ご利用操作ガイド」の手順で行う。

(3) 平日午前(午前7時15分から午前8時30分まで)の場合

ア 開扉及び解錠

(ア) 午前7時15分までに敷地図及び校舎配置図に示された正門、職員玄関及び生徒玄関の開扉を行う。

(イ) セットされている電気鍵システムを解除する。

(ウ) その後、敷地図及び校舎配置図に示された箇所の開扉を行う。また夏季の間（雨天を除く）は5棟（501教室）及び6棟に付帯する窓等の開口部の解錠を行う。

なお、気候・天候を勘案して妥当と判断した場合は通気のため窓を開ける。

(4) 平日午後(午後5時から午後6時45分まで)の場合

ア 施錠及び閉扉

(ア) 午後5時までに事務室で待機する。

(イ) 校舎の閉扉を行う。また校舎等に付帯する窓等の開口部の施錠を行う。

(ウ) 電気鍵システムをセットをする。

(エ) 午後6時45分に正門、職員玄関及び生徒玄関の閉扉を行う。

(5) 土曜・日曜・休日の業務

開扉・閉扉及び開錠・施錠の箇所は平日にならうが、土曜日は6棟の開錠・施錠は要しない。また、日曜・休日は4・5・6棟の開錠・施錠は要しない。

3 従事室の準備

登庁後、学校管理従事者が待機する事務室の暖房等、従事に必要な準備を行う。

4 文書の受領、学校業務の受信、外来者の応接及び関係職員への連絡

(1) 文書の受領

ア 郵便受けに配達された新聞は、事務室のテーブル等に配架する。

イ 従事者の登庁時に郵便受けに配達されている郵便物がある場合若しくは職員の不在時に郵便物及び宅配便の配達があった場合は、これを受け取り、開封せずに事務室内の所定の場所に置くこと。

ウ 郵便物のうち重要なもの(現金書留等金庫に保管する必要があるもの)は、受け取らず、配達人に対して職員の在籍時間を伝え、再配達するように依頼する。

(2) 電話等による学校業務の受信

ア 事務室において、電話等による学校への連絡事項を受信する。

イ 生徒・保護者から欠席・遅刻の連絡があった場合、生徒欠席・遅刻連絡票に記入し事務長の机の上に置いておく。

ウ 欠席・遅刻以外の連絡の場合、メモ用紙に記載し事務長(もしくは事務長が指定した職員)の机の上に置いておく。

エ 上記ウについて、宛先となる職員が既に登庁している場合、宛先となる職員に電話を転送するか口頭で連絡することとしても差し支えない。

(3) 外来者の応接

ア 来校する外来者は事務室に立ち寄るように掲示等で案内をするので、受付をする。

イ 来校する外来者が予め分かる場合、職員はホワイトボード等により外来者の応接の概要等を学校管理従事者に連絡する。学校管理従事者は、外来者の来校時に氏名(所属等)及び来校の目的等を確認し、来校者名簿に記帳してもらうとともに、来校者である旨の名札を着用してもらい、待機を指示された部屋等をお知らせする。

ウ 職員から事前に連絡を受けていない来校者があった場合、氏名(所属等)及び来校の目的等を確認し、職員の勤務時間(午前8時30分から午後5時)の間に改めて来校するよう丁寧に伝えることを原則とする。

エ 緊急を要する来校者の場合等で、校内に通してもよいか従事者で判断が付かない場合は、事務室又は事務室が不在の場合は教務室等の職員と連絡をとり、業務の引継を行う。なお、事務室及び教務室等とも職員が不在の場合、事務長(もしくは事務長が指定した職員)に電話等により連絡をとり、業務の引継を行う。

5 校舎等の損壊等の応急措置及び関係機関・関係職員への連絡

(1) 校舎等の応急措置

ア 火災警報装置のパネル表示で火災の表示がされた場合、現場に出向き状況を確認する。

イ 火災を発見したら、自身の身体の安全を確保した上で、可能な範囲で、消火を行うとともに延焼を防止するための応急措置を行う。

ウ 災害等が発生した場合、校舎等の周囲を周回し、校舎等の損壊の有無を確認する。

エ 損壊を発見した場合、自身の身体の安全を確保した上で、校舎等への風雨の吹き込みの防止や損壊の進行を防止するための応急措置を行う。

(2) 関係機関・関係職員への連絡

ア 火災を確認した場合は、直ちに消防署に通報する。同時に別に示す緊急連絡網により、事務長(もしくは事務長が指定した職員)に連絡する。

イ 災害等により校舎等の損壊を発見した場合、事務長(もしくは事務長が指定した職員)に連絡する。

ウ その他の校舎等の異常(危険物の発見・異臭・異音及び著しい室内の散乱等)を確認した場合は、事務長(もしくは事務長が指定した職員)に連絡を取り、業務の引継を行う。

6 業務日誌

(1) 従事者は、毎日、業務終了後に業務日誌を記載し、事務長(もしくは事務長が指定する職員)に提出すること。

(2) 業務日誌の書式は別添のとおりとし、書式にある記載事項に留意の上、必要事項を記載すること。

敷地図

